

連載 私の町はどんな町⑫

— 本庄市 (本庄宿) —

本庄宿は、武蔵国中山道十番目の最終宿です。

宿は東台四丁目が東の入口で、西端の「金鑽神社」まで十七町三五間（一八〇〇米強）江戸から八四キロ強の道程で深谷宿と共に二泊目の投宿地でした。

本庄宿の由来は、武蔵七党中、児玉党の一族である「庄太郎」が、一ノ谷合戦の武勲の恩賞でこの地に定着し、庄家の本家筋に当たるので、地名を「本庄」と定めたこと云われています。

一五五六年に、本庄実忠が民家もなにもない荒涼の地に築城し、上州新田郡より農民を移住させ、城下町を形成しました。

武蔵国と上野国の国境の神流川をひかえ、交通の要所でもあり、天保十四年調査では戸数一二二軒、人口四五五四人と激増し、当時中山道の宿駅中、戸数人口共に抜群の一位を占め、旅籠も七十軒を

かぞえ、深谷、塩尻、草津に次いで第四位でした。現在の本庄市の街並みからは想像のできないことで、宿駅制度の崩壊と共に、生産性のない消費のみに頼った街の末路を見ような気がします。

高崎本線本庄駅が開業したのは明治十七年で、車輪喧騒、煙突からの粉塵や火の粉に恐れをなし、敷設の反対運動が起こり、宿から五〇〇米以上離れた田畑の中に駅舎を建てることで妥協したというエピソードがあります。

本庄宿の還構は、明治一六年に建てられた警察署が、今は公民館となり、その前に田村本陣の門が復元されています。

宿の終点の「金鑽神社」の角を右折し、宿を出た中山道は、激しい屈折もなく坦々とした往還で、当時の道幅三間位（五〜六米）を保っています。このあたり一帯を描写して、古書には

惣じて此の辺りには、園に桑を栽え、家宅には蚕養を営み、繭をとり、これを煮て糸を操り、功を積りて絹を織る」と表されています。今日

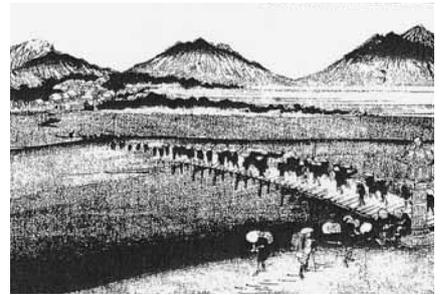
でも畑の周囲に桑の木を植え、養蚕の盛んな雰囲気があります。かつて本庄は繭の集散地として全国一を誇っていました。

JR神保原駅から中山道に突き当たるあたりに「仲屋」と看板を出した旅籠が残っています。この辺りが本庄宿と次の上州新町宿の間になり人馬の休憩する「石場の立場」だったと云います。

立場から国道を横切り右側に出ますと人家が疎らになり旧中山道のたたずまいの中を一キロ程進むと、右側に質素な鎮守様という感じの「八幡宮」があり、境内左側に「遥拝地」と刻まれた石碑が立っています。

ここから榛名山の秀峰に向かって豊作を祈念していたと云います。今でもそこに立ってみると、前方は広々と開けて霊峰か何か判らないけれど、遠くの山脈を望むことが出来ます。

勅使河原の「大光寺」の境内に、英泉画に描かれている「神流川の常夜灯」が保存さ



神流川渡場 (英泉画)

れているとのこと。

武蔵国と上野国の国境を流れる神流川は当時、河原を含めた川幅は五十四米強で中州によって流れは二つに分かれていました。本庄寄りの流れは早かったため仮橋が架けられ、新町側は徒歩で渡っていたらしいです。

橋を渡った群馬県側の三米位の石碑に「神流川古戰場跡碑」と筆太に陰刻してあります。神流川合戦は、一五八二年に前橋の滝川一益（信長の重臣）と、小田原の北条氏政との争いで、その規模は川中島の合戦と同等の大合戦だったらしいけれど、史上の知名度は低いようです。

(小島 次郎)

マンション大規模修繕工事なら 専門会社ラクシーにお任せください!

専門会社ならではのノウハウがあります😊

工事進捗情報サービス

- ホームページで工事の進捗状況を、リアルタイム配信!!
- ★IDとパスワードによる個人情報保護
- ★インターネットのつながる環境であれば全国どこでも24時間確認可能
- ★足場内の施工写真や工程表、お知らせを随時更新

<http://www.ruxy.co.jp/>

国土交通大臣許可 (特-16) 第20636号  
 本社 千葉県松戸紙敷1009  
 東京営業所 東京都港区新橋4-25-6鈴山ビル2階  
 神奈川営業所 神奈川県横浜市西区楠町10-8

0120-552-028

検索サイトで「ラクシー」と検索してください

